

○ 平成30年度第1回渋川市総合計画審議会結果概要

開催日時	平成30年12月26日（水） 14時00分から16時15分まで
開催場所 及び出席者	<p>本庁舎3階 大会議室</p> <p>○審議会委員：河藤委員、結城委員、高橋委員、新保委員、後藤委員、小澤委員、今井委員、水沢委員、入澤委員、眞下委員、大森委員、大澤委員、小林委員、野村委員、斉藤委員</p> <p>○市長、教育長</p> <p>○部局長：総務部長、総合政策部長、市民部長、保健福祉部長、農政部長、商工観光部長、建設部長、水道部長、教育部長、農業委員会事務局長、議会事務局長</p> <p>○事務局：新政策課長、政策第二係統括主幹、政策第二係員</p>
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料No.1 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について ・資料No.2 渋川市新市建設計画変更方針 ・参考資料 渋川市新市建設計画 ・資料No.3 渋川市総合計画の検証について ・参考資料 渋川市総合計画中間検証結果報告書
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 あいさつ（市長） 4 自己紹介（委員・職員） 5 議事（報告） <ol style="list-style-type: none"> （1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について （2） 渋川市新市建設計画変更方針 （3） 渋川市総合計画の検証について 6 その他 7 閉会
審議結果	<ol style="list-style-type: none"> （1） 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について 会長は指名推薦、副会長は議長一任によって下記のとおり選任。 ・会長 河藤委員 ・副会長 結城委員 （2） 渋川市新市建設計画について 意見なし （3） 渋川市総合計画の検証について 中間検証の評価方法・内容について疑義あり。最終報告では、審議会での意見を踏まえ、市民にわかりやすい検証内容となるよう検討する。

○ 議事の審議概要

(1) 渋川市総合計画審議会の会長及び副会長の選任について
会長には河藤委員、副会長には結城委員を選任した。

(2) 渋川市新市建設計画変更方針について
特に意見なし

(3) 渋川市総合計画の検証について

No.	委員からの意見等	市回答等
1	評価は、目標を達成したのか否かという明確な基準で評価すべき。すべての施策を明確にできないならできるものだけでも個別の資料等で説明することが望ましい。	評価方法は、他市の事例も踏まえ中間検証と同様に行うが、できるだけ工夫できるものは検討したい。
2	中間検証結果について、評価者や評価根拠が不明確である。	最終の評価では、わかりやすくなるよう工夫したい。
3	中間検証結果について、総合達成度と施策の方向性の関係が不明確である。	施策の方向性は、第2次総合計画の策定に当たっての方向性である。
4	評価のプロセスにおいては、客観的な判断ができるように、施策の担当課のほか、二次的に評価する部署が必要。また、客観的な評価が特に必要な施策は、審議会に諮るなどの工夫が必要。	市の内部では、新政策課や庁議において検討することで、客観的な評価ができるようにしたい。
5	中間検証結果のごみの減量化、再利用の施策の評価を見るに、環美協で行っている不法投棄ごみの撤去は含まれていないようである。こうした業務は評価されているのか。	施策の評価内容について、環境まつりは啓発活動として、ごみの排出量の数値を指標として評価した。
6	新市建設計画策定専門委員会に行政センターの所長が含まれていない。環境美化の活動は、主に行政センターの職員と行っているため、専門委員会に所長が含まれていないことや行政センターからの情報が庁内で共有できているのか疑問である。	総合計画の検証体制のうち庁議には、行政センター所長も含まれている。また、行政センターは市民部において統括しているため庁内の情報は共有されている。

No.	委員からの意見等	市回答等
7	観光地の河川の美化が不十分である。	河川管理者である群馬県と協議しながら適切に管理したい。なお、利根川、吾妻川の水質検査は定期的を実施しており、今後も継続していく。

※以下、各委員からの自由意見

No.	委員からの意見等	市回答等
1	一般市民の感覚により意見していきたい。	
2	地域で空き家が問題となっている。この問題を地域だけで解決することは困難なため、行政において相談窓口があることが望ましい。	空き家の相談事業は市民協働推進課にて所管しており、専門家も交えて対応している。今年3月からは空き家バンクも活用している。何かあればご意見いただきたい。
3	中間検証結果にある施策は、時代のニーズに合わせて見直すべき。	第2次総合計画（H30～39）の策定に当たり、施策の見直しを行った。
4	河川の保全には下水道の整備も必要である。	
5	防犯の施策について、安全・安心なまちづくりに必要な防犯カメラの設置が満足に行われていないため中間検証の評価は納得できない。安全なまちをPRするためにも防犯カメラの設置はもっと進めるべき。	防犯カメラの設置は、自治会や学校からの要望を受け、警察と協議しながら設置している。プライバシーに配慮しながら適切な場所に設置していきたい。
6	ハタラクラスぐんまを伊香保で行い、県内大学の留学生の意見を民間企業にも聞いてもらった。その結果を受けて、公共交通機関において新しい取組が進められている。協力機関には感謝したい。	
7	市にイベント誘致の部署ができた。庁内外と連携しながら市内施設を活用してイベント誘致を進めてもらいたい。	

No.	委員からの意見等	市回答等
8	市民全員が満足する施策はないだろうから、施策の評価に当たっては、市が努力していること PR するなどして評価の根拠が分かりやすくなるようにしてもらいたい。	
9	施策の評価は、行政を熟知し、客観的な立場にある者が評価することが望ましい。たとえば市長や自治会長などが該当するのかもしれない。	
10	スポーツの施策について、中間検証結果は甘いと感じるが、施策の目標が何かをもっとわかりやすくすべき。	施策の指標は、具体的な目標を見直しながら設定している。
11	最近では、スポーツに親しむ人と親しまない人が極端に二極化していることについて懸念している。しぶかわスポーツクラブを立ち上げたので、多くの市民にスポーツに親しんでもらいたい。	
12	市内の体育施設は、県大会より上の大きな大会の誘致が難しい。施設を充実させ、市民のスポーツへの関心を高めたい。	
13	リサイクルごみの回収品目が、以前に比べて少なくなっている。自治会や育成会が回収しているが、必ずしも十分に機能していない。ある程度、行政主導で回収してもらえないか。	資源ごみ回収は自治会以外の団体も可能。ほかの団体での回収も検討していただきたい。
14	渋川から他地域に通学している高校生がいるようだが、市内の高校が市のイベント等で活躍していることをもっと PR してほしい。	

No.	委員からの意見等	市回答等
15	中間検証について対応があまりにも遅い。市内の地域では、様々な課題があるので、スピード感をもって対応してもらいたい。	今後は、スピード感をもって対応していきたい。
16	広域組合の活動は、渋川市をはじめ広域で連携しながら進めている。今後も連携を図りながら事業を推進していきたい。	
17	不法投棄ごみの問題が、行政の中や市民に十分周知されるよう努めてほしい。	不法投棄ごみについては、以前は新聞や森林所有者に情報提供していたが、最近はなくなっている。PRに努めたい。林道管理者もごみの問題は把握している。適正に対応していきたい。
18	自治会の資源ごみ回収に対する補助金が以前より下がっている。自治会の貴重な財源なので値下げはせず、できれば値上げをしてほしい。	資源ごみ回収の補助金額は、財政面も考慮しなければならないので、値下げをしないかは明言できない。
19	人口減少、特に、若者の流出を防ぐために雇用の創出に努めてほしい。	
20	渋川市は、人口規模に対して予算規模が大きく、職員数も多い。施策にメリハリをつけながら行政改革を進めてもらいたい。	
21	第2次総合計画の推進に当たっては、市だけが取り組むのではなく、市民も自分たちができることを提案し、その提案により市民が参画できる仕組みを市が整備していくといった協働体制が重要である。	

